

平成29年度 第2回五島市総合教育会議議事録

- 1 日 時 平成29年11月27日（月） 午前10時～11時11分
- 2 場 所 五島市役所3階第1委員会室
- 3 出席者
【構成員】 野口市長、藤田教育長、林田教育委員、坂本教育委員、佐藤教育委員、杣川教育委員
【事務局】 政策企画課長、教育委員会総務課長、学校教育課長、生涯学習課長、教育委員会総務課総務係長

4 傍聴者 なし

5 内 容

（1）開会

【事務局】

みなさま、おはようございます。

本日は、お忙しいところお集まりいただきましてありがとうございます。ただいまより、平成29年度第2回五島市総合教育会議を開会させていただきます。

今年度の第1回会議は、7月31日に開催しておりますが、10月20日より杣川委員が就任しておりますので、メンバーが変わっての最初の総合教育会議ということになります。この総合教育会議は、市長と教育委員会の協議、調整の場として、法律により設けられておりますので、有意義な会議になればと思います。

さて、7月末の第1回会議で皆様に協議いただきました、給付型奨学金制度につきましては、9月市議会で条例を制定し、来年の4月から施行することとなりましたのでご報告させていただきます。既に、市広報誌の11月号で市民の皆様へ周知するとともに、市内各高校へチラシを配布して高校生へも周知しているところです。今後、高校生にとって、給付型奨学金制度が、日々勉強に励む一助になればと思っております。

本日の会議は、次第に沿って進めさせていただきますが、協議題までは、事務局の方で進行をしたいと思っておりますのでよろしく願いいたします。

（2）市長挨拶

【野口市長】

みなさま、おはようございます。今回から新しく柚川委員が入っていただきまして新しい体制でのスタートとなります。これからもよろしく願いいたします。

ここ数年、少子高齢化ということが大きくとりあげられておりまして、私自身は高齢化については、特に大きな問題ではないと思っております。できる限り長生きしたいという中で医療技術の発達などもあり、日本は有数の長寿国になりました。そういった中で高齢者の数が増えてきている状況は、本来であれば我々が目指している世界でもありますし、様々な課題や問題がでてくれば解決していかなければならないと考えております。むしろ、問題なのは少子化の方でございまして、子どもがなかなか生まれてこないという中で、構成比が高齢者の方が高くなってきていると言われているわけですが、いかに子どもの数を増やすかということが日本の将来を考える中で一番大切なことだと思っております。こういう大きな流れの中で、今の政府も社会保障が高齢者に偏っているところをできるだけ子ども達、全世代型に向けようという大きな考え方があるようです。例えば、保育料などを無償化する、あるいは所得の状況を見ながら減額していく、また、小中学校生についてはなかなか具体的にはでてきていないようですが、高校生以上については、給付型の奨学金や大学の授業料減免などいろいろと国の方も考えているようです。それを担っている現場は市でありまして、国に先立って総合教育会議でも協議いただいた給付型奨学金制度を創設させていただきました。子育てや教育費の負担を軽減するという中で、できるだけ子どもを産み育てやすい環境をつくって少子化に対応することが大切だと考えております。

こういった施策を行うことは喜ばれる話ですので制度を設計するのも楽しみではあるのですが、一方で、少子化に対応するという事で、我々が取り組まなければならない課題というのもでてくるわけがございます。それが、本日の協議題である学校統廃合のことになります。このことは地域にとっては非常に大切な問題であります。ただし、子ども達の教育環境を考えた時に、地域の方へは喜ばれないかもしれませんが真摯に取り組んで解決していかなければならない大切な課題だと思います。このことについては、しっかり議論していきながら進めていきたいと考えていますのでよろしくお願いしたいと思います。

(3) 事務局説明

【事務局】

事務局より、本日の会議の進め方等について説明。

それでは、ここからの進行は市長にお願いしたいと思います。

(4) 協議題 「学校統廃合について」

【野口市長】

それでは、ただいま事務局より進め方等について説明がありましたが、そのような形で進めさせていただけたいと思いますが、よろしいでしょうか。

それでは、本日の協議題「学校統廃合について」事務局より説明をお願いします。

【事務局】

配布資料（児童生徒数の推移等）の説明。

浜窄小学校、玉之浦地区3小中学校の保護者等との協議内容について説明。

学級数と教職員定数について説明。

【野口市長】

ただいま説明がありましたが、浜窄小学校と玉之浦地区の3小中学校の保護者との懇談会の内容については、配布資料の会議録により確認いただいているということで進めさせていただきますがよろしいでしょうか。まず、配布された資料の中でご意見等があればお伺いしたいと思いますがどうでしょうか。

浜窄小学校と玉之浦地区の小中学校については統廃合は避けて通れないところまできていると思っています。これまで岐宿地区3小学校の統合などもあり、なかなか手が付けられないでいた状況ですが、いよいよこれら学校についても検討を始めなければならないという状況になりました。浜窄小学校については、保護者や地域の方からも概ねご理解をいただいておりますので、平成31年4月から三井楽小学校と統合ということで進めていきます。玉之浦地区については、会議録にもあるとおりの意見がいろいろとあるようです。小学校は統合という形、小学校と中学校をまとめて小中学校とする形、あるいは中学校については岐宿中学校と統合という意見もあるようです。我々が危惧しているのが、小中で統合しても学校がにぎやかにはなるのですが、中学校が抱えている課題については、小学校と一緒にしたとしても何ら改善されないということです。先ほど事務局からも説明がありましたが、学級数が2学級になってしまうと専門の教科を教える先生が不足することになるようです。中学校は10教科あるようですので、4教科は専門外の先生が授業を行うこととなります。こういったこともあり、中学校については課題を解決するためには岐宿中学校と統合という意見もでてきているようです。

いずれにしても、地元とも協議を重ねながら進めなければならないと考えています。

【佐藤委員】

玉之浦地区については、玉之浦小学校、平成小学校、玉之浦中学校の3小中学校で統合するのが良いと思っています。小中学校の統合では、中学校については根本的な解決にはならないということはわかりますが、岐宿地区で3小学校が統合してすぐに岐宿中学校も統合に関係してくると岐宿地区がざわざわするような感じもします。玉之浦地区の住民も岐宿と統合すると地域から中学校がなくなりますので、まずは玉之浦地区の3小中学校で統合して、先々で玉之浦中学校と岐宿中学校が統合するという順番が地域の方も納得するような気がします。

【坂本委員】

久賀の場合は二次離島という特殊事情もあり、PTA活動も大変なので保護者が統合してほしいというような思いがありました。私が久賀で教師をしていた時には、既に小学校と中学校で共同でPTAの組織を作っていたようです。こういったこともあり、スムーズに統合できたように思います。ただし、学校がなくなった後は蕨地区では火が消えたような状況で、住民からも静か

になったという声を聞きます。

二次離島の場合は、一校は地域に残してほしいという思いはあります。浜窄小学校は、私も新任校長として赴任したことがあります、非常に教育環境が素晴らしい学校だと感じました。しかし、私がいる頃には30名以上の児童がいましたが、現在は10名を切っているということで、保護者も子どものために何とかしてほしいということですし、保護者との懇談会等の会議録を見てもと教育委員会も丁寧な対応で進めていただいているようですので、浜窄小学校については、統合することについて、特に問題はないものと思っております。

【柚川委員】

岐宿地区の場合は、ずっと前になりますが中学校が統合した経緯がありましたので、地域住民もそういったものという感覚があったように思っています。小学校の統合については、そんなに支障はなかったと思っていますし、各地区の状況も問題なかったのでやりやすい環境にあったと思います。

玉之浦地区については、中学校1つと小学校が2つあって、まずは小中一緒になるのが良いと感じますが、保護者の考え、校舎の問題、通学距離などの問題があると思います。

【野口市長】

通学距離については、玉之浦地区の学校が岐宿の小学校及び中学校と統合したと仮定した場合、玉之浦地区から岐宿地区に通学するとなると通学時間はどれくらいかかりますか。

【事務局】

スクールバスでの運行となりますが、玉之浦地区から岐宿地区に通学した場合、一番遠い地域が玉之浦の小浦になります。事務局で小浦から岐宿中学校までを乗降場所に寄りながら法定速度で試走してみました、約1時間10分程度かかりました。

【野口市長】

私の今までの考え方としては、小学校と中学校を統合するということは基本的には二次離島でのやり方と考えていまして、福江島の方ではあまり考えていませんでした。中学校のところはスポットを当てた時に、子どもの教育環境を考えた時には小中学校の統合では課題が改善されないことになるからです。二次離島の場合は選択肢があまりありませんので、効率的に学校を運営するという意味で小中学校として統合している状況です。玉之浦地区については、合併前の旧町で考えた場合に、玉之浦地区に中学校がなくなってしまうということで寂しい気持ちになります。そういう地域の声と子どもの教育環境をどう考えるかということになりますがどうでしょうか。

【林田委員】

地域にとっては小学校も中学校も残したいという思いがあり、玉之浦地区の3校を一緒にして、盛りあげていきたいという思いもわかります。例えば、崎山地区のように小学校と中学校が近くにあった場合は交流もスムーズにできますし、地域で盛り上げていくことも可能だと思いますが、玉之浦地区の学校だと距離が遠いため、なかなかそこが難しい所だと思います。地域の思いもわ

かりますが、一番大事にするところは子どもの教育環境になると思いますので、小学校2校の統合は良いと思いますが、中学校については、生徒のことを考えると小中での統合は難しいのかとも思います。それと、先ほどお聞きした玉之浦地区から岐宿地区まで通学するのに片道1時間ちょっと時間がかかることは大変なことだと思いました。

【野口市長】

学校統廃合について、通学時間については、文科省の基準みたいなものはどのようになっていますか。

【事務局】

文科省の基準では、バスとかも使ったの「おおむね1時間以内」ということが示されていますが、地域の実情に応じて検討してくださいということになっています。

【野口市長】

通学時間のことを考えると、いずれは他地区の学校の統廃合も検討する時期がくると思います。他地区でも地域住民からは地元に残してほしいという要望があると思います。統合先としては、福江地区の大きな学校になると考えられますが、通学時間については重要な判断基準になると思っています。

【藤田教育長】

通学時間については、文科省の基準では、全国の過去の統合実績において統合後の最遠方からの通学時間は10分未満から75分までと幅広いものになっていますが、9割が1時間以内ということになっていることから「おおむね1時間以内」と示しているようです。場合によっては地域の状況によって、1時間を超える通学時間もあるようですが、玉之浦の小浦から通学するとなると1時間ちょっとかかるようですので、特に小学生の低学年にとっては厳しい環境になると思っています。

【坂本委員】

子どもの負担だけでなく、保護者も朝早くに準備しないといけなくなりますので、保護者の負担も大きいかと思います。

【野口市長】

例えばですが、スクールバスで通学する場合は、小学生と中学生が一緒のバスに乗ることは問題ないですか。

【事務局】

小学生と中学生が一緒のバスに乗ることは問題ありません。

【野口市長】

資料を見ると、浜窄小学校では保護者との懇談会が終了してすぐに保護者の総意ということで回答があっているようですが、玉之浦地区の3校については、まだ回答がきていないということになりますか。

【事務局】

玉之浦中学校では、保護者それぞれの考えということで回答はもらっていますが、保護者の総意としての回答はもらっていません。保護者それぞれの考えを見ると約8割が3校での統合ということになっています。玉之浦小学校と平成小学校については、まだ回答がきておらず、回答を待っている状況になります。

【坂本委員】

玉之浦地区では、地域住民への説明は終わっていない状況になりますか。

【事務局】

まずは保護者の考えを聞き、教育委員会の方針を決めてから地域住民への説明会に臨もうと思っていますので、現時点では玉之浦地区の地域住民への説明は行っておりません。

【坂本委員】

保護者、地域住民から統合についての確約がとれているのは、現時点では浜窄小学校のみという理解で良いですか。

【事務局】

はい。

【野口市長】

まずは保護者の考え方を聞いて、それを固めてから地域へ説明していくという流れになりますが、市の思いだけではなかなか進めませんので、地元の意見等をしっかり聞いて、理解を求めた上で進めていく必要があると考えています。

小中学校で統合するのか、小学校と中学校を切り離して考えるのかということは、地域の人がさみしいという感情だけなのか、中学生の教育環境を優先して考えるのかということになると思いますが、市としては子どもの教育環境を優先するという考え方を持っています。

【佐藤委員】

学校統廃合の話は、子どもたちからも意見を聞いたりしますか。

【事務局】

小学生からも中学生からも意見は聞いていません。あくまで保護者から意見を聞いています。ただし、保護者に働きかけた時に、保護者は家庭の中で子ども達と話をするだろうということは前提にあります。

【野口市長】

玉之浦小学校と平成小学校を統合するとした場合には、どちらに校舎をもっていくかということもあります。現在、玉之浦中学校は小川地区にありますのでスクールバスは玉之浦から小川地区に走っています。そういうことを考えると校舎は平成小学校になることが考えられます。小中学校として統合する場合の校舎は、一番校舎が新しい玉之浦中学校になることが考えられます。

【藤田教育長】

あと一つパターンがあって、中学校が岐宿と統合すると仮定した場合は、小学校の校舎は空くことになる玉之浦中学校の校舎を使用することも考えられます。

【野口市長】

統合した場合の相手方の小学校についてですが、浜窄小学校だったら三井楽小学校の保護者へは説明はしていますか。

【事務局】

その件については三井楽小学校の校長と話をしたのですが、PTAの役員へ伝えれば良いということで話をしていますが、いつ説明するということは決めていません。

【野口市長】

仮に岐宿中学校と統合するとなった場合は、岐宿中学校の保護者への説明も必要になるかもしれません。

先ほども話ができましたが、小中学校として統合するのは、まずは、という考え方になります。子どもの教育環境を考えた場合に最終的な解決にはなりません。小中学校で統合した場合も、近いうちに中学校はどうするかということを検討することになると思います。中学生が何人になるまで小中学校として存続するのか、ゼロになるまで存続するのか、そういったことも考えながら検討していく必要があると思います。小学校にしても、2つの小学校を統合しても複式学級は解消できません。複式学級の解消という大きな考え方からすると、小学校も中学校も岐宿にという考え方はでてくると思います。

【柚川委員】

話を聞いていると、中学校だけ岐宿と統合して、小学校は2校で統合という形が良いのかと思います。小学校についてもいずれは岐宿小学校と統合する流れになると思います。

【野口市長】

このことは、中学校に上がってくる小学校高学年の保護者の考えを良く聞いて、教職員の配置であるとか、専門の教科の先生から学べない科目がある話とか、そういったことをしっかり説明した上で、市として方針を固めていく必要があると思います。

【藤田教育長】

もしかすると、玉之浦中学校については、来年度から複式学級になる可能性があるという聞いています。確定ではないですが、部活動の関係で小学校を卒業したら玉之浦中学校に進まずに他の中学校に行くということも耳にしています。そうすると教職員の配置定数のことがありますので、専門外の先生が授業をしていかなければならないという実態が生まれてきます。そういうことも踏まえると保護者が子ども達の教育環境がこのままで良いのかという新たな考えもでてくるものと思います。

それと、玉之浦小学校と平成小学校の保護者からは12月初旬には回答がくるのではという情報もありますので、そのことも踏まえて進めていきたいと考えています。

【野口市長】

玉之浦小学校と平成小学校の保護者からは、12月初旬には回答がくるということですが、そういったことも踏まえて、玉之浦地区の今後の予定として、地区住民への説明など、どの程度の時期を想定していますか。事務局としてはどのように考えていますか。

【事務局】

12月に両小学校から回答をいただければ、今年度中には地区住民への説明も行いたいと考えています。できれば玉之浦地区についても、どのような形になるかはわかりませんが平成31年4月から統合ということで進めたいと考えています。

【野口市長】

統合の形が見えてくると議会や委員会でも意見がでてくると思いますので、進めていく中で協議の必要がでてくれば臨時会として総合教育会議を開催したいと思いますのでよろしくお願ひします。

それでは、以上で学校統廃合についての協議は終了したいと思います。

(5) その他 事業進捗報告 (①新図書館建設について、②山本二三美術館設置について)

【野口市長】

それでは次にいきたいと思ひます。事務局が準備してあります2つの事業について進捗状況等の説明をお願いしたいと思ひます。

まず、新図書館建設について説明をお願いします。

【事務局】

新図書館建設について進捗状況の説明(新図書館整備基本計画案の策定に係る検討委員会での意見、面積などの見直し案、今後の予定など)

【野口市長】

次に、山本二三美術館設置について説明をお願いします。

【事務局】

山本二三美術館設置について進捗状況の説明（基本設計、契約状況、指定管理者の選定、今後の予定など）

【野口市長】

建物については市の文化財の指定を受けていますが、建物の外観とか景観はどのようになりそうですか。

【事務局】

建物の外観や景観は基本的に変わりません。一部変わるところが正面玄関口に車椅子用スロープをつけるようになります。

(6) 次回開催について

【野口市長】

それでは、次回開催についてですが、ある程度時期を決めたいと思いますが事務局から何かありますか。

【事務局】

総合教育会議の開催については、定例的な会議を年に2回程度を予定しておりますので、今年度の定例的な会議としましては、本日の会議で終了したいと考えております。しかし、今後、市長や教育委員会から協議・意見交換したい内容がございましたら、事務局までご連絡いただければ、第3回目の会議の調整を行いたいと思います。また、緊急的に開催する必要が生じた場合については、事務局より皆様へご連絡したいと考えております。

【野口市長】

それでは、総合教育会議の開催は、年に2回程度を目安としていますので、今年度の定例的な会議としましては、本日の会議をもって終了したいと思います。ただし、事務局からも説明がありましたとおり、今後、皆様から協議、意見交換をしたい内容がございましたら事務局までご連絡いただければ事務局と調整し、ご案内したいと思います。また、先ほど協議しました玉之浦地区の学校統合についても、地区住民から意見がでた中で、統合の形が見えてみなさまと意見交換の必要がでてきた場合は、臨時的にでも会議を開催したいと思いますのでよろしく願いいたします。

(7) 閉会

【野口市長】

それでは、以上をもちまして、今年度、第2回目の五島市総合教育会議を終了したいと思います。ありがとうございました。